

〔上原喜代子議員 登壇〕

○12番 上原喜代子さん 12月定例会、一番目の一般質問となっております。良い答弁がいただけるよう、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、通告書にしたがって一般質問をいたします。1. 南星中学校の校舎整備について（1）南星中学校は、昭和62年4月に開校し、築28年となる。建物の塗装工事の計画はあるのでしょうか、お伺いします。（2）南星中学校の玄関ホールは、靴箱を撤去し広々とした空間になっています。床の凹凸をなくし、使い勝手のある工夫が必要と感ずますが改善する考えはあるのでしょうか、お伺いします。

2番目に、国保財政支援について。（1）特別調整交付金の財政支援額が本年平成27年度から8億円の増額となっております。交付要因として、未就学児被保険者の加入率が全国平均を上回るためとしています。これは沖縄県だけのことでしょうか、お伺いします。

（2）沖縄県国保連合会によると、県内1人当たりの医療費の赤字額は約2万4,000円で、全国の約9,200円を大きく上回っているとしています。その要因となる沖縄の特殊事情に対し明るい展望はあるのでしょうか。（3）国保連合会によると、本年度から低所得者数に応じた財政支援が当初見込みの30億円から約21億円に抑えられる見通しといたします。そのことをどう捉えているのでしょうか、お伺いします。以上2点、よろしくお願いいたします。

○議長 宮城清政君 教育長。

○教育長 赤嶺正之君 上原喜代子議員の質問事項1. 南星中学校の校舎整備についてのご質問にお答えします。（1）でございますけれども、南星中学校の建物の塗装工事に関しましては、補助事業を導入いたしまして整備をする予定でございます。

（2）玄関ホールの凹凸でございますけれども、これから学校と調整いたしまして整備をしていく予定でございます。以上でございます。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項2点目、国保財政支援について（1）にお答えします。今回の財政支援は、未就学児被保険者の加入率が全国平均を上回り、かつ被保険者1人当たり基準総所得金額が全国平均を下回る保険者に対して交付されます。全国ベースで30億円を配分予定であります。ご指摘のとおり、そのうちの8億円が沖縄県内の保険者に配分される試算となっております。

（2）についてであります。国による全国一律の保険者支援制度や特別調整交付金による支援はありますが、前期高齢者加入率の低い沖縄の特殊事情に対する具体的な財政支援

策は明示されておりませんので、県内保険者とともに要請を継続して行っていくことが大切だと考えております。

(3) についてです。国保の保険者を低所得者数に応じて支援する保険者支援制度について、国は今年度より 1,700 億円を追加し制度を拡充しております。国の試算では平均して被保険者 1 人当たり 5,000 円程度の財政改善効果となる旨の説明がありました。現時点では、県全体での保険者支援額が約 21 億円、1 人当たり 4,500 円の効果となっており、そのうち本町分の支援額は約 4,300 万円、1 人当たり約 4,200 円の財政支援となっておりますが、国保の赤字解消には至りません。低所得者層の多い本県には、更なる支援拡充が必要であることから、引き続き国に対する要請を行ってまいります。以上です。

○議長 宮城清政君 12 番 上原喜代子議員。

○12 番 上原喜代子さん それでは、再質問をさせていただきます。南風原中学校の建物に関しては、打ちっぱなし工法と言うのですか、塗装はされていない校舎でありますがかし、28 年も経過した今では、何か汚れているような感じがあり、とても薄黒く見えるのですよね。個人の住宅であれば風格の一つかとも思いますが、何せ子どもたちが集う場所でもありますので明るいほうがいいのではないかと思います。建物の周辺が擁壁で高い塀に囲われ、草木も生い茂っているものですから、なおさら暗さを感じるのです。南風原小学校のように広々と、建物の色も明るい気持ちか軽やかになると思うものですから、クリーニングするのも一つの方法だと思うのですけれども、なるべく色をもって明るくしたほうが子どもたちの精神面から考えてもいいのではないかとその質問をいたしました。補助事業を導入する予定であったと答弁をいただいておりますので、ぜひこの件は子どもたちのためにも明るい校舎で気持ち良い学びの場ができるよう改善をしていただきたいと思います。希望してこの件は終わります。

(2) ですが、玄関に立って見ますと、靴箱がないものですからその凹凸がすごく目立つのです。表彰状や何か子どもたちへのメッセージなどを置いても、この凹凸が邪魔して目立たなく機能的にも悪いし、デザインの的にもあまり良くないと感じるものですから、ぜひこの件も学校側との調整とありますので、凹凸をなくせばもっと空間が広く使い勝手も良くなるのではないかと考えます。ぜひ学校側と調整してこの件も改善していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして、2 点目の国保財政支援についてです。何かすごく気が重くなる、私の中でも整理整頓ができ兼ねる部分ではありますが、ぜひ何か良い答弁がいただけるかと思っております。国が新たな特別調整交付金による財政支援策の拡充として 12 月中に全国に通知となっているとのことですが、12 月といたら今月ですよ。この動きは見えるのでしょうか。お伺いします。

○議長 宮城清政君 国保年金課長。

○国保年金課長 野原 学君 今ご指摘の通知というのは、今日現在まだ届いておりません。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん まだ届いていませんとのことですが、やはりまた出遅れるのかと感じております。この財政支援を拡充する要件として、先ほども答弁があったのですが、未就学児被保険者の加入率が全国平均を上回る、そしてまた被保険者1人当たりの基準総所得金額が全国平均を下回る、この2つの要件を満たしている保険者に対してその他特別事情と言っているのですが、全国ベースで約30億円、うち8億円が沖縄県への交付額ということです。正直言って、あるのは大変ありがたいことだと思います。そして全国規模で考えると8億円という数字がものすごく大きいような、沖縄県だけが優遇されているような錯覚に陥るのですが、行政ではどのような見方をしているのでしょうか。お伺いします。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。沖縄県の特殊事情から見ますと、この8億円という額にしてみれば国保財政の悪化の状況からすると足りない金額ではあります。しかしながら、国においても1,700億円の追加支援をすでに決めておりますが、それとは別に特別調整交付金において沖縄県の特殊事情にもどうか少し支援していく表れが出ているものとだと認識はしております。ただ、その金額では、沖縄の特殊事情が解消されるものではない。しかしながら、こういうかたちで幾分かでも沖縄の特殊事情をどうかして特別調整交付金の中でもその他特別に事情がある場合ということで医療費が多くかかる未就学児のほうに着目して8億円増額していただいたことに関しては評価できるものだと思っております。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 特殊事情に対し、1,700億円とは別に拡充がされているから大変ありがたいことだと答弁いただきましたが、もちろんそれはそうだと私も思っております。やはりメインとする沖縄の特殊事情が気になるものですから、そういう質問の仕方をいたしました。まだ通知もないということで金額もまだ定かではないのですよね。ですから、その部分に対して8億円の数字だけに振り回されているような感もするものですから、動向をきちんと見極めなければいけないのではないかと感じております。特殊事情に

ついて次でもお聞きしたいと思いますのでよろしくをお願いします。

(2) ですが、本県の赤字額が全国平均の約 2.5 倍あるとのことで、全国同様に 1 人当たり約 1 万円程度の財政支援を受けるとすると、本県だけが平成 30 年以降も約 1 万 4,000 円の赤字を継続ということであります。那覇市が財政安定支援事業ということで需用額を算定し、項目としては保険料負担能力、それと過剰病床、年齢構成差の 3 つの要素で算定しているとあるのですが、このなかに保険料負担額が大幅に増ということでは見解を示しているのです。南風原町もこういう算定をしているのでしょうか、お伺いします。

○議長 宮城清政君 国保年金課長。

○国保年金課長 野原 学君 試算を行った結果、財政安定化支援事業の部分、3 項目あるのですが、トータルでは南風原町の場合はプラスになっております。

○議長 宮城清政君 12 番 上原喜代子議員。

○12 番 上原喜代子さん 課長がおっしゃったのは、保険料の負担能力がプラスになっているということですよ。これは那覇市も大幅に増ということになっています。年齢構成差については、那覇市はゼロと出していますが、本町はどうなっているのでしょうかお伺いします。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えいたします。この国保財政安定化支援事業での試算ですが先ほど課長も答弁しました保険料負担能力について町も増額になると、過剰病床は該当なしで、もう一つの年齢構成差について試算は出していますが手元に資料を持っておりません。この年齢構成差の部分に関しましては、県内ほぼ那覇市と同じような状況になると見ております。前期高齢者の年齢構成差から波及してきますので、那覇市と同じ状況になるものだと思います。

○議長 宮城清政君 12 番 上原喜代子議員。

○12 番 上原喜代子さん 私が伺ったのは、やはりこの沖縄県の指摘する特別事情の部分年齢構成差として示していると理解しているものですから、県内は那覇市と同じ状況だと思っていますので、この項目が該当せずでゼロということは、これまで町長を先頭に一生懸命要請してきたことには何ら進展はないのかと、沖縄県には不利な状況であると捉えます。では、国は年齢構成差に関してどう考えているのかということでの質問を

したのですが、部長はどう考えていらっしゃいますか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 まさに議員がおっしゃいますように、沖縄県の特殊事情、前期高齢者の加入率が低いということで交付率が全国の 5 分の 1 程度しかない部分をずっと訴え続けてきておりますが、そのなかにおいて国保財政安定化支援事業の算定方法の見直しのなかにおいてもさらにこの年齢構成差の部分で前期高齢者の加入者数の影響が出てきている部分があるということで改めてわれわれとしても沖縄県の特殊事情として悪い条件が 1 つ増えてきましたと認識しておりまして、この部分も含めて今後も引き続き国に要請していきたいと思っております。

○議長 宮城清政君 12 番 上原喜代子議員。

○12 番 上原喜代子さん 何か気が重くなり気落ちする部分があるのですが、これは気を緩めることなく継続して行っていただきたいと、特殊事情を国に分かってもらうまではがんばっていただきたいと思っております。ぜひそのようによろしくお願いいたします。

では、(3)に移ります。低所得者に応じた財政支援で 30 億円から 21 億円に抑えられる部分の質問をいたしましたのですが、この低所得者向けの保険料軽減措置に対する財政措置拡充の件であると理解していきまして、国全体で 1,700 億円を設定していて、それが各県へ配分され市町村ごとの金額についてはこれからだと、9 月定例会での私の一般質問に対して答弁があったのですが、それが保険者の支援額は約 21 億円、1 人当たり 4,500 円の効果となっており、そのうち本町分の支援額は約 4,300 万円で 1 人当たり 4,200 円だと答弁をいただきました。答弁のとおり、これは赤字解消どころではないですよ。その赤字解消どころではない部分でとても思うこと、個人的な思いではあるのですが財政支援の約 30 億円が約 21 億円の減額の見通しだとした場合に、差額が 9 億円。そして市町村が期待して望む年齢構成差がゼロ、その他特別事情に対する新たな交付金 8 億円の支援、これを総合的に捉えていくとプラスには転じないですよ。そういう考え方が正しいのかどうか。いろんな言葉が出てくるものですからその言葉に惑わされ、数字に惑わされたりするのですが、総合的に考えますとやはり減の部分が多いのではないかと思うので、それは見方としてどうなのでしょう。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。まず、前期高齢者の問題がないものとして考えた場合には、この財政支援制度で国が 1,700 億円を今年度から拡充することについてはす

ごく国保財政にとっては評価できるものだと思っております。しかしながら、沖縄県だけはやはり特殊事情がございまして、国のこの支援策をもってしてもなお半分以上赤字が残る試算になります。そして、当初、沖縄県には30億円程度の配分があるだろうとしていた部分に関しましては、国が1,700億円を決定した時点で、また国では粗々の計算で沖縄には30億円ぐらいになるだろうということで金額が先走りした部分がございます。実際この低所得者数に応じて支援するこの保険者支援制度を、実際実数で計算していきますと、先ほどありました南風原においては1人当たり4,200円の財政支援となっている部分、何度も申し上げますように前期高齢者の部分がなければ大変ありがたい財政支援であると思えます。これだけ財政が厳しい状況になっておりますので、引き続き県内市町村足並みを揃えて国に継続して要請していく必要があると思っております。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 支援していただけるのはありがたいことだと重々承知しているのですが、なにせ全国一律に1人当たり1万円を補助するとして、全国は9,200円、沖縄県が2万4,000円、ここに打ち出している4,200円では到底足りるどころではないことが一目瞭然で分かります。ですから、8億円入って、出ていくのがこれだけでと計算した場合に、とはいえトータルで見べきものではないとは思いますが、支援というのはいろんな名目がありますから個別に見なければいけないとは思いますが、なんといってもトータルの見えてしまっただけでこの数字は何なのかと思ってしまうのが正直なところであります。平成30年には、沖縄県は広域化へ、そして国保の赤字についてはこれまでどおり一般財源で補てんを続けていく。そして平成35年前後で前期高齢者の加入割合が全国と同レベルになってという予想のもと全国と肩を並べられるのではないかと、これが明るい兆しという捉え方で進んでいくのかと思うのですからそこはどうなのでしょうからお伺いします。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 われわれも早く明るい兆しを感じたい、見たいのはありますが、議員がおっしゃいますように平成35年に前期高齢者の加入率が全国平均並みになります。その時点からは交付率も同じかたちになってきます。しかし、それまでの間で積み重なっていく赤字が、今のままだと増えていく一方でしかないということで全く明るい兆しは見えない状況だと思います。ですから、こういう赤字が膨らまない、減らしていけるというような明るい兆しが見えるように引き続き国に要請してまいりたいと思っております。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 9月定例会では、明るい兆しが見えると部長はおっしゃっていたものですから、私は期待していろいろ調査しましたのですけれども、やはり見えないものですから致し方ないと思っております。引き続いて今定例会でもこの国保の財政支援について取り上げました。その流れの中で、沖縄県の特殊事情に対する国の動向は見えないことが一番で、市町村が奮闘、努力している部分だけが感じられるのですが、町長にがんばって欲しいといつも申し上げていまして、9月定例会においても町長の気持ちも答弁としていただきましたので、今後とも国に要請し続けていただけるようお願いしたいと思っております。その決意のほどをよろしく願いいたします。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 お答えします。国保の問題で議員の皆さん、上原喜代子議員においてもいろいろな角度からのご心配に感謝申し上げたいと思います。これに対しては、私たちが毎回申し上げていましており制度そのものは全国的には素晴らしい、しかしながら沖縄県にはなじまない。前期高齢者が少ないのは戦争の負であるという、これに対してようやく国も認めてきております。前期高齢者が少ない根拠は何だったのか、国も理解を示してきております。また国も沖縄県の厳しさから救うためにはと、あの手この手で数値の見直しをしたり、子どもたちがたくさんいらっしゃる部分に救いを与えるなかから年齢構成の差額はゼロにするとすると、痛しかゆしになってくる部分がありますので、これに対しては11月18日にも要請してまいりました。17日に内閣は発表され18日の朝刊にはタイムズ、新報にも載っていたと思いますが、この状況を見て私たちはどうなるのか。国保調整金72億配分、そしてプラス8億だと。単純に考えますと80億が沖縄県に配分されるのかと誤解する文面だったと感じます。72億円というのは、通常今までも調整交付金で配分されている額でありますので、72億円あつてはじめて沖縄県全体で100億円あまりの赤字であります。72億円が新たにくるのだという錯覚、またそういう面で18日に再度、内閣府にお願いに上がり事情を説明しております。その時には、国保連合会、都市研究部会の皆さん方も一緒になってこの状況を報告し、また今の沖縄県においては厳しい状況だとし、公明党の秋野公造先生にも再度時間を取ってもらってこの中身をお話申し上げましたら、ぜひ国会で取り上げますと約束なされました。いろんな数値、根拠となる理論的な視点から秋野先生と話し、また私たち当初1,700億円から30億円の概算であるとしていたものを試算してみましたら恐らく21億円ぐらいになる、これプラス8億円としても30億円弱。これにまた菅官房長官においては沖縄県に30億円はやりますよというお話をいただきましたので、トータルしても60億円。しかしながらあと50億円、60億円足りない。これに対して1,700億円からの配分では、ぜひとも45億円ないし50億円をやってもらいたいと再度要望し、さらに28日には国保連合会会長、市長会の南城市長と市長の皆さん方が要請もしております。再三、再四にわたり私たちは再確認をする意味で、12月にはだいたい予算はある

程度煮詰まってくると聞いておりますがしかし、24日からの要請の話もありますので、再度、国保連合会、町村会、市長会も一緒になって要望し、平成35年以降には全国平均にいくわけですが、それまでに沖縄県の市町村がもつか、平成35年にいくまでに皆沈没していってしまうのではないかと。そこまで悲壮感を私たちは持っております。そういう意味では平成28年度に向けて、また30年度は県が一本に統一されますのでそれまでには私たちは最善の努力を尽くし交渉もしてまいりたいと思っております。

○議長 宮城清政君 12番 上原喜代子議員。

○12番 上原喜代子さん 町長、ありがとうございます。町長の正直な気持ち、平成35年までもつのかなというそれは、皆が本当に気にかけている部分でして、ここを皆さんが努力なさっている、がんばっている、奮闘している部分は町民皆が認めているところだと思います。ぜひ今後も引くことなく国に対して強い要請をし続けていただきたい。町長の思う理想の数字として45億円を勝ち取っていただけたら、こんなに嬉しいことはないと思っておりますので、今後ともがんばっていただきたいと要請いたしまして私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございます。